

2018年度 大学入試センター試験（本試験）分析と学習のアドバイス

科目： 日本史 B

◆全体概況

大問数・解答数	大問数：6題 解答数：36問
難易度	やや易化
分量	昨年並み

◆大問別分析

大問	出題分野・テーマ等	配点	分析
第1問	文化と観光資源	16	3年ぶりに会話形式が復活。Aでは「ゆるキャラ」、Bでは世界遺産に関する内容で、古代から近代までの幅広い時代からの出題。問6では複数の資料を用いる問題も出題された。
第2問	原始・古代の国家と音楽との関係	16	原始・古代の国家・社会と音楽との関係を題材に、古代中心の総合的な問題。問5は大仏開眼供養に関する資料『続日本紀』の読解問題で注釈まできっちり目を通して読む必要があった。
第3問	中世から近世初期までの地震とその影響	16	中世から近世初期までの地震とその影響に関する問題。人形浄瑠璃の開始時期など判断がやや難しいものも出題された。
第4問	近世の外交・思想・宗教	16	近世の外交・思想・宗教に関する問題。受験生の苦手な年代配列問題で亜欧堂田善と高島秋帆の砲術演習の順番に悩まされた受験生が多かったのではないかな。
第5問	幕末から明治維新にかけての軍制改革と西洋医学	12	近代の軍制改革と西洋医学の発達をテーマとし、政治を中心とした問題。複雑な幕末の政治史を整理できているかがポイントであった。
第6問	近現代の政治・文化	24	石橋湛山の人物史を題材とし、近現代を総合的に出題している。問8では史料が1960年に執筆された論文であることを踏まえて、中華民国や中華人民共和国との関係を判断する必要があった。